

月刊CDCガイドラインの最新情報をとこよりも早くお届けします！
編集長/矢野邦夫

12月号

第一八〇回
インフルエンザ
ワクチンと
卵アレルギー

【過去の推奨】

2012年8月、CDCは「ワクチンによるインフルエンザの予防と制御」(<http://www.cdc.gov/mmwr/pdf/wk/mm6033.pdf>)においての勧告を行った。そこには、「アレルギーなく、軽く調理した卵（スクランブルエッグなど）を食べることができるか？」と質問し、食べることができればワクチンを接種してかまわない。卵もしくは卵を含んだ食物を食べた後に、蕁麻疹のみを経験したことがある人にも接種は可能である（ただし、接種後少なくとも30分はアレルギー反応を観察する）。しかし、「心臓血管系変化（血圧低下など）」「呼吸苦（喘鳴など）」「胃腸症状（吐き気/嘔吐など）」「エビネフリンを必要とした反応」「救急治療を必要とした反応」を経験したことがある人については、接種する前にさらなる評価を受けるためにアレルギーの専門家に相談

【新規の推奨】

2016年8月、CDCは「ワクチンの予防と制御」(<http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/rr/pdfs/rr6505a.pdf>)において、卵アレルギーの人への接種についての勧告を修正した。まず、卵アレルギーのある被接種者について、「アレルギー反応の症状をみるために接種後30分は観察すべきである」という勧告を削除した。そして、被接種者が気を失ったときに怪我する危険性を減らすために、**接種後15分はすべての患者を観察することとした**。さらに、CDCは左記を推奨した。

- ①卵を食べたところ、蕁麻疹のみを経験した卵アレルギーの既往のある人には接種する。
- ②卵を食べたところ、蕁麻疹以外の症状（血管浮腫、呼吸困難、意識朦朧、繰り返す嘔吐など）を経験した人、エビネフリンなどの救急医療行為を必要とした人にも接種してもよい。ただし、

ワクチン接種は重症アレルギー状態を認識かつ管理できる医療従事者によって監督されるべきである。

③インフルエンザワクチンを接種したところ、重篤なアレルギー反応を経験したことがある人にはワクチン接種は禁忌である（アレルギー反応の原因として疑われる成分の如何にかかわらず、禁忌である）。

【推奨の根拠】

アナフィラキシーなどの重症アレルギー反応はすべての種類のワクチンに含まれるさまざまな構成成分によって引き起こされうる。しかし、幸いにも、そのような反応はまれである。
・小児および成人へのさまざまなタイプワタクチン（インフルエンザワタクチンのみではない）を510万回以上接種したワタクチン安全データリンクのデータによると、アナフィラキシーは合計33症例であった。これは100万回の接種当たり、131件の割合となる。このうち、8件において、症状

は接種後30分以内に始まった。21件において、接種後30分を超えて症状が始まり、1件は翌日に症状が始まった。

・3価不活化インフルエンザワタクチンの70万回以上の接種では、アナフィラキシーは10件であった。
・不活化インフルエンザワタクチンの研究のレビューによって、卵アレルギーの人に接種しても重篤なアレルギー反応は発生しないことが示された。4172人の卵アレルギーの人（513人に重症アレルギー反応の既往あり）を含んだデータのレビューによると、3価不活化インフルエンザワタクチンを接種してもアナフィラキシーは発生しなかった（ただし、軽度の反応はみられた）。

プロフィール



やの・くにお
浜松医療センター
副院長 兼
感染症内科長
「ねころんで読める
CDCガイドライン
(メディカ出版)」
シリーズ等、CDC
関連の編・訳書多数。

●今月の矢野編集長
信州上田市に「手洗池」があることを知った。感染対策の聖地として推薦する。参拝することをICDとICNの認定条件とした。